海外邦人安全対策情報（２０２５年１月－３月）
（在ニュージーランド大使館管轄地域）

１　ニュージーランド（ＮＺ）国内全体の治安情勢

（１）テロ関係

ＮＺ政府は、国家テロ脅威度を５段階で示しているところ、２０２５年３月末日現在の脅威度は「低い」（５段階中の下から２番目、テロ攻撃は現実的な可能性がある）となっています。一方、２０１９年３月には、ローン・オフェンダー型の白人至上主義者によるモスク銃撃事件が発生し、５１人が死亡しました。また、２０２１年９月には、ＩＳＩＬの影響を受けた男による刃物使用襲撃事件が発生し、８人が負傷しており、引き続き、テロに対する警戒が必要です。

（２）一般治安関係

ＮＺでは、強盗や侵入窃盗、車上ねらいや繁華街での暴行事件が、多く発生しているため、防犯対策には十分な注意が必要です。犯罪組織（いわゆるギャング）の抗争もしばしば勃発しており、銃器が使用される事件も発生しております。これらに巻き込まれることのないよう、繁華街等では特に注意してください。また、電話やテキストメッセージ等でお金を騙し取る特殊詐欺が多発していることから、不審な電話やテキストメッセージ等には十分に注意してください。邦人が、内国歳入庁（IRD：Inland Revenue Department）の職員を装った振込め詐欺被害に遭う事案も多発しています。ＮＺ国内では覚醒剤（メタンフェタミン）等の薬物犯罪が社会問題化していますので、留意してください。

２　犯罪の傾向

（１）犯罪の発生状況

２０２４年中のＮＺ国内における人口１万人当たりの強盗事件（Aggravated Robbery）の発生率は、日本と比べ約３２倍、性犯罪の発生率は５．８倍、住居侵入・侵入窃盗の発生率は２７．７倍に上ることから、十分な注意が必要です。

※　犯罪発生率は、２０２４年１月から１２月における警察庁統計と Policedata.nz Victimisations Time and Place を基に、当館にて集計したもの。

（２）注意すべき犯罪と対策

被害に遭わないためには、警戒心を持ち、周囲の変化に気を配ることが大切です。日常生活において、心配のあまり過剰に反応し過ぎる必要はありませんが、いざというときのため、普段の生活の中で様々なケースを想定しておくと、実際の事件に遭遇したときにもパニックに陥らずに対処できる可能性が高まります。

ア　窃盗・強盗

特に、侵入窃盗（空き巣等）や車上ねらい、置引きに注意してください。必要に応じて、自宅に防犯用のセンサーやカメラを設置し、貴重品やバッグを車内に放置しないようにするなど、日頃から自身の防犯意識を高めてください。また、貴重品のシリアル番号等を控えておくなど、被害に遭った際の対策もご検討ください。

また、夜間はもちろん、昼間や夕暮れでも、人通りの少ない場所での独り歩きは避けましょう。自分の身は自分で守るという意識を持って行動することが大切です。

イ　暴行・傷害

繁華街では飲酒がらみの暴行･傷害事件も発生しています。泥酔して気が荒くなっている人を見かけたときには、相手をジロジロと見ないよう気を付けながらも、その人に

不意を突かれないように留意してください。

ウ　薬物犯罪

ＮＺでは覚醒剤（メタンフェタミン等）の乱用が社会問題となっています。繁華街の路上や深夜のバー、ナイトクラブ等で知らない人に声を掛けられても、絶対に薬物に手を出さないでください。犯罪組織等の収入源にもなっているため、ＮＺ警察は薬物犯罪を厳しく取り締っています。

エ　特殊詐欺

電話やテキストメッセージ等でお金を騙し取る特殊詐欺が多発しています。不審な電話がかかってきた時には、一旦電話を切り、先方の電話番号を検索し、正しい連絡先であることを確認の上かけ直してください。ネットバンキングを利用する際は、二段階認証を利用し、二段階認証のコードやパスワードは誰にも教えないようにしてください。不審なテキストメッセージやメールに貼られたリンクをクリック又はタップしないようにするとともに、不審なテキストメッセージを内務省の通報先（７７２６）に転送してください。万が一、不審なリンクをクリック又はタップしてしまった場合や二段階認証コードを他人に教えてしまった場合は、すぐに銀行に連絡するとともに、コンピューター緊急対応チーム（Computer Emergency Response Team：CERT）に通報してください。CERT の通報先は、https://www.cert.govt.nz/individuals/report-an-issue/です。

以下は、NZ 国内の銀行が案内している注意点です。

【詐欺電話と疑われるサイン】

- 予期していない電話
- 馴染みのない企業等からの電話
- 携帯電話又はパソコンへのリモート・アクセスの許可を要求する電話
- なんらかのソフトウェアをダウンロードするように要求する電話
- 迅速な行動・対応をせかすような電話
- 銀行口座からお金を引き出すように依頼する電話

【取るべき行動】

- 電話を即座に切り、通話を終了する。
- 架電相手企業（銀行等）の正規の電話番号にかけ直す（先方に折り返し電話するようには依頼しない）。
- オンライン・バンキングのパスワードを決して教えない。
- 個人情報を教えない。
- 認証コードを教えない。

（３）最近の犯罪及び事故等

２０２５年１月１日深夜、南島のネルソン市中心部で、徒歩にてパトロール中の警察官２名に車両が衝突し、警察官１名が死亡、１名が重傷を負う事件が発生しました。犯人は、現場で逮捕されています。

２０２５年２月２４日夜、北島のウェリントン市中心部の繁華街で、外国人女性１名が死亡する交通事故が発生しました。

２０２５年３月上旬、北島のウェリントン市内を走るメットリンクバス内において一人で乗車する女性に対するわいせつ行為事件が複数件発生しました。犯人は、後に逮捕されています。

（４）邦人が巻き込まれた事件・事故

２０２１年５月３１日夕方、クライストチャーチにおいて、在留邦人２人（未成年）が暴行に遭う被害が発生しました。なお、犯行時、犯人はアジア人に対する差別的な発言をしています。

３　テロ・爆発物事件発生状況等

（１）テロ事件

ア　クライストチャーチのモスク２か所に対する銃撃事件

２０１９年３月１５日、クライストチャーチに所在する２か所のモスクにおいて、銃撃事件が発生し、５１人が死亡し、数十人が負傷しました。実行犯として逮捕された豪州国籍の男は、白人至上主義を主張する過激思想の持ち主で、逮捕時に軍用半自動小銃等を所持していました。事件後、ＮＺ政府は銃規制を強化するなどテロ防止に向けた対策を推進していますが、国内には依然として多くの猟銃等が流通しており、引き続き、警戒が必要です。

イ　オークランドのスーパーマーケット内における刃物使用襲撃事件

２０２１年８月、オークランド郊外に所在するスーパーマーケット内において、刃物使用襲撃事件が発生し、８人が負傷しました。実行犯はその場で警察に射殺されました。犯人はスリランカ難民で、ＩＳＩＬの過激思想を支持しているとして２０１６年から当局の監視下にあったとされています。

（２）<u>留意事項</u>

テロの類型別の留意事項は以下のとおりとなります。

ア　刃物を用いたテロ

- 犯人との距離を取る。周囲にある物を使って攻撃から身を守る。

イ　イベント会場、空港等の屋内でのテロ

- 不測の事態の発生を念頭に、出入口や非常口、避難の際の経路等についてあらかじめ入念に確認する。
- 会場への出入りに際しては、混雑のピークを外し、人混みを避ける。
- セキュリティが確保されていない会場の外側や出入口付近は危険であり、こうした場所での人混みや行列は避けるようにする。空港等では、人の立入りが容易な受付カウンター付近に不必要に近寄ったり長居したりすることはせず、セキュリティ・ゲートを速やかに通過する。
- 二次被害を防ぐため、周囲がパニック状態になっても冷静に行動するよう努める。

ウ　車両突入型テロ

- ガードレールや街灯などの遮へい物がない歩道等では危険が増すことを認識する。
- 歩道を歩く際は、できるだけ道路側から離れて歩く。

エ　爆発物、銃器を用いたテロ

- 爆発や銃撃の音を聞いたら、その場に伏せるなど直ちに低い姿勢をとり、頑丈な物の陰に隠れる。
- 周囲を確認し、可能であれば、銃撃音等から離れるよう、低い姿勢を保ちつつ速やかに安全なところに退避する。閉鎖空間の場合、出入口に殺到すると将棋倒しなどの二次的な被害に遭うこともあるため、注意が必要。
- 爆発は複数回発生する可能性があるため、爆発後に様子を見に行かない。

４　日本企業の安全に関する諸問題

特に認知されていません。